



# おじさんズ通信

2024年2月号 (No.39)

発行元：登別市新生町  
桃柿通 緑風舎  
発行者：おじさんズ3号



発行は毎月15日頃。バックナンバーは「おじさんズ」のホームページでどうぞ

## 朝のコーヒーミル合奏曲

ゴリゴリ、ガリガリ、ジョリジョリと、ハンドルを廻すたびに、手ごたえ確かな合奏曲を奏でる我が家のコーヒーミル。はるばるグアテマラやコロンビア、エチオピアからやってきた、光り輝く褐色の種子たちが、豆粒から粉末へと姿を変えています。

結婚祝いにいただいてから同じ屋根の下、50年近い時間を共にしてきました。裏底には「珈琲サイフオン株式會社」の社名が。あいつ、ひょっとすると、大枚はたいてから、「しまった」と悔悟の念にかられたのじゃなかろうか。そう思うと、木製台の上に据えられた丸いお椀が、銀色の王冠に見えてきます。

ゴリゴリ、ガリガリ、ジョリジョリと、器用な生き方が不得手なわたくしどもに似合いの合奏曲の後は、慌てず、騒がず、ドリッパーから滴り落ちる茶色い液体の一滴、一滴がゆっくりとリズムを刻みます。

香り立つ至福の一杯を味わいながら、今朝も「西洋式臼くん、ありがとう」と感謝、感謝。



## HOW MUCH! —「キネ旬」のお値段について—

「本は町の塵の中に戻しなさい」(石川淳)との至言をそろそろ実行に移さなければと、押し入れてじっと日陰の境遇に耐える「キネマ旬報」を、今年是一部を身売りすることにしました。

これまでも何回か本通信で紹介しましたが、室蘭の映画マニアだった上野誠一郎氏のコレクションです。1946年6月発行の復刊第3号に始まり、930号(1986年=昭和61年=2月下旬号)までの本を残されました。ただし、欠落した号もあり約500冊にとどまりますが、昭和40年ころからのキネ旬は古本市に出しても買い手がつきそうです。

別にこれで一儲けしようという気など毛頭ありませんので、ご安心を。

聞けば、元の持ち主である室蘭シネマクラブが今年には発足15周年とか。その記念イベントでも開かれれば、会場の隅っこにでも並べて売って、お足はクラブ運営資金の一助に全額贈呈と思案、立案した次第です。

### ▶▶▶ で、なんぼにすべか ◀◀◀

そこで、売値です。15周年にちなんで1冊150円にしたら…「安い」と何冊もまとめ買いする人が出てきて、知らぬ間に女郎屋ならぬネットのフリマに売り飛ばされちゃうのではと勘ぐると、妄想はとまりません。それとも、オークションにして値を吊り上げて高く売るか、と銭ゲバ根性が頭をもたげると、イケマセヌとの天の声が聞こえてきそうでもあります。

ちなみに、写真掲載した1983年6月下旬号=左上=は「特集・007オクトパシー/家族ゲーム/きつね/泪橋」や「追悼・寺山修司」などの文言が表紙を飾っています。右の1977年春の特別号の表紙イラストは漫画「野球狂の詩」でおなじみの主人公。中をめくると「水島野球漫画のヒロイン・水原勇氣 ついにスクリーンに登場!!」のタイトルで、木之内みどりの撮影グラビアが織り込まれています。

まだ2月、バナナのたたき売りにはするまい、と思いつつ店開き前の値決めに四苦八苦。どなたか、お知恵拝借です。「買いたい」の声あれば、個別商談もあり? かな。





## 野辺歩きの「拾いもの」

### —街道重昭写真展—

元高校教師で、郷土史研究の先達でもある街道重昭さん（84）の写真展です。会場は登別市のショッピングセンター「アーニス」2階の市立図書館分館。文字通り、野辺のイタドリをフレームに代えて収めた写真は15点、ほとんどが自宅の千歳町周辺のニナルカと呼ばれる野山を歩いて撮った草木や自然の造形美などです。



エゾシカの食害に遭わないらしい、二本の花の穂がユニークなフタリシズカ（写真）やマユミ、カシワ、フクジュソウ、ヤマボウシのほか、オオカミの穴やクジャクチョウの姿も。「野辺歩きは好奇心・ガキ心・童心が満たされる」と語る街道さん。サミュエル・ウルマンの「青春」を思い出します。2月25日まで。



## 暴風にも、よくぞ耐えた

### —海辺の首折れ松を称える—

室蘭の道の駅「みたら」近くの大型客船専用バースを歩いていたら、出くわしました、首が折れた一本松に。

地元住民にはおなじみなの光景なのでしょうが、隣マチからの越境者には、ちょっとした驚きの出会いでした。

首からは身ぐるみはがされ、よく見ると幹の節々も露わにされ、なんとも可哀そう。よくぞ、潮風、暴風、雨アラレに耐え抜いた—と、心の中でヒョウショウジョーをあげました。



## なぜにキミはここに？

### —奇妙な落とし物—

「軽油 給油中です」

帰宅途中に自宅近くの交差点で目についたプレート=写真下=に、（なぜにキミはここにいるの？）と問いかけて、スマホでパチリ。



好奇心旺盛なじい様は、近くの給油所に立ち寄り聞いてみました。若いスタンド・ガールの回答。

「うちのようなセルフじゃないスタンドで軽油を入れたとき、車にかける『給油中』の札、外すの忘れたまま走り出し、途中で振り落としたのでは」。さすがプロ！！

カメラで古文書や史資料などを上から撮ってみると、被写体は正・長方形ではなく、どうも台形などに歪んで写ります。それを回避するノウハウです。

1. カメラの三脚の台座部分を取り外す。少し力を入れると壊すことなく外せます。
2. 中心を通る棒の下のキャップを外す。
3. 台座を逆さまの状態にして下から中心棒に通す。
4. 下のキャップを取り付ける。
5. カメラを逆さにして固定する。

文化財レスキュー隊を指揮する白石市の学芸員さん、講演での伝授、ありがとう。



## 「まず停まる」が一番！

今月某日の昼、予期せぬ危険に遭遇しました。自動車専用道の交差点で停止し、青信号に変わり先頭を走りだした途端、同じ左車線のカーブに大型トラックがデ〜んと停車して「どひゃー！ こんな事って」—あったのです。

ブレーキ踏みつつ、とっさにサイドミラーを見ると、右車線をビュンビュン飛ばしてくる車、車、車。ハンドルを切っていたら、間違いなく衝突事故です。とにかく、車を止めると、運よく追突されることなく後続車も次々と停車してくれました。

あるんですね、車線を完全にふさいだまま動かない大型車がいるケースが。

恰好悪くとも「まず、停まる」。後期高齢ドライバーの教訓そのイチでした。それにしても、ビックリしたな〜。

## 薫風 烈風

▶先日、登別市のまちおこし協力隊員のお二人と話す機会がありました。そのうちの一人は、すでに市内に土地と住宅を購入して住まわれているとのこと。

「風の人」が「土の人」に。何か、お手伝いできることがあれば、と思っています。

▶一人雪まつりで造った雪像を、カマクラにしようと考えているうちに、気温がどんどん上がり、溶けてしまいそうな気配です。なぜか高田渡が「あんまり長く放っておくと お行儀が悪くなる」と歌った「アイスクリーム」の歌詞を思い出しました。進む地球温暖化。30年前になりますか、室蘭工大の先生が「石炭を地中に埋めときなさい。やがて北海道は亜熱帯になり、ダイヤモンドができる」と大予言を放っていました。うーん、現実になりそうな気がします。春までもう少しの辛抱です。皆さん、お元気で〜。